



福島市立清水中学校

# 道徳通信



No.2  
令和元年  
7月19日

## 2学期には担任以外の道徳の授業があります

道徳の授業というと学級担任が行うものですが、2学期は学年の中で教師が交代で各クラスの授業を担当します。本校では、これを「ローテーション授業」と呼んでいます。通常は、学級担任がある題材について自分のクラスで1回のみ授業を行います。それに対してローテーション授業は、各教師が学年内の各クラスであるひとつの題材について授業を行うものです。

これらの効果としては、

- ① 各教師がひとつの題材を研究し複数のクラスで授業を行うことで、その題材の指導をよりよいものに改善することができる。
- ② 実態の異なるクラスで道徳の授業を行うことにより、学年の生徒の様子についてより理解を深めることができる。
- ③ 授業者と担任とで授業について話し合うことで、教師の研修の機会とする。

### 〔ローテーション授業のイメージ〕

※あくまでイメージであり、実際はもう少し複雑になります

	1週目	2週目	3週目	…
1組	教師A	教師F	教師E	…
2組	教師B	教師A	教師F	…
3組	教師C	教師B	教師A	…
4組	教師D	教師C	教師B	…
参観	教師E	教師D	教師C	…
	教師F	教師E	教師D	…

などが期待されます。生徒たちも、ちょっぴり新鮮な気持ちで、道徳の授業に臨むことができるのではないのでしょうか。

## 道徳の授業より

### 1年 いちばん高い値段の絵（友情・信頼）

フランスの画家ミレーはルソーと親しくなり、お金がなくて困っているミレーのもとにルソーが訪れ、人に頼まれたからと、高額でミレーの「接ぎ木をする農夫」の絵を買っていきましました。ルソーはミレーを高く評価し励まし続けたのです。時がたち、病気で寝込んでいるルソーを見舞いに初めてルソーの寝室に入ったとき、ミレーの目に入ったのは、いつかルソーが人に頼まれたと言って買った「接ぎ木をする農夫」の絵だったのです。うそをついてまでも友人を助けようとしたルソーと、うそを信じていたミレーとの関係は・・・

- 【内容】
- ① ルソーがミレーを思う気持ちとは。
  - ② ミレーがルソーを思う気持ちとは。
  - ③ 友達とはどんな存在だろうか。



### 【生徒の感想から】

- ・ 友達はかけがいのない大切な存在だと分かりました。友達との関係を忘れずに、これからを過ごしていきたいと思いました。
- ・ 友達のために何かしてあげることが大切だと思った。うそといっても、友人が幸せになるためのうそだから友情だといえる。
- ・ 友人のために優しいうそをついたと思う。ルソーはミレーにとって恩人であり、大切な友人だと思った。
- ・ うそはうそでもルソーは優しいうそをついたことが優しいと思った。友情を通り越して恩人だと思う。
- ・ ルソーはうそをついてまでも買ったのはルソーのやさしきで友達だからこそできたことだと思う。

## 2年 松葉づえ（思いやり、感謝）

「みんな、誰のために大野を助けてやってたんだよ。」その言葉は、僕の心に大きく響いた。

転校生の大野君は、骨折の治療中で松葉づえをついています。クラスメイトは、移動や授業ノートの手助けなど、大野君に優しくしようとしますが、伊藤君だけは先回りして親切にする必要はないと積極的ではありません。しかし、大野君が中間テストで最高点をとったり、将棋部で強さを発揮したりするうちに、みんなは徐々に手を貸さなくなっていく。ある日、走ってきた女子が松葉づえにつまづき転ぶと、大野君を責める雰囲気になりました。そんなとき、伊藤君が呼びかけた言葉に僕は…。

松葉づえの大野君に対して親切にしていた「僕」が態度を変えていく心情の変化を通して、「思いやり」とは何かを話し合い、考えを深めることができました。

【内容】① 「思いやり」とはどのようなものなのだろうか。

② 「僕」はどのような気持ちで、大野君・伊藤君の言葉を聞いたのだろうか。

③ このあと「僕」は、どのような行動をとるのだろうか。



【生徒の感想から】

- ・ 相手を思いやる行動は、自分のためにもなると思っていたが、意図的に自分のためになるように動いていたのかもしれないと思いました。
- ・ 相手のことを考えて手伝ったり、助けたりしないと、この話のような「事件」になると思いました。
- ・ 「思いやり」には、相手への愛や親切心が必要だと思いました。相手を大切に思うようにしたいです。
- ・ 自分が嫌だからといって、その人に対する態度が変わってしまうのはダメだと改めて思いました。
- ・ 自分の都合だけでなく、相手のことも考える。今まで思っていた「思いやり」とは考えが変わりました。

## 3年 背番号10（思いやり、感謝）

野球部のキャプテンになった「僕」。夏の暑い練習をやり抜いた後の新人戦で、チームは敗戦し、士気が下がってしまいます。「僕」は、いらだちを皆にぶつけるように注意してしまい、皆の心は離れていきつつありました。そんなある日、練習中に「僕」は骨折し、数か月野球ができなくなってしまいます。翌日から「僕」は、チームの裏方に徹し、皆を励まします。皆はしだいに「僕」を頼りにするようになりました。夏の大会前、復帰したばかりの「僕」は背番号10を監督からもらいます。皆に向かって礼をした僕に大きな拍手が送られました。

【内容】① 「僕」はどんな思いで、父に「野球をやめて勉強に専念しようか」とつぶやいたのか。

② ベンチ入り選手に選ばれ、深々と頭を下げた「僕」はどんなことを思っていたのか。

③ 「僕」と「僕」を取り巻く人々との関わりから学んだことはどんなことか。



【生徒の感想から】

- ・ 感謝の気持ちや思いやりの気持ちを持つことが大切だと思った。自分が相手に迷惑をかけてしまうことがあり、部活のときなどに感謝の気持ちや思いやりの気持ちを持つと思った。
- ・ 時に、周囲に強く当たってしまうことがあるので、思いやりと感謝の気持ちを持ちながら、素直な気持ちでいることが大切だと学びました。
- ・ 自分のことだけでなく、相手のことを考えて行動することが大切だと思いました。
- ・ 常に、感謝の気持ちを忘れずに、人への思いやりの気持ちを持つことが大切だと思いました。
- ・ 友達が落ち込んでいるときや、小さい子やお年寄りと接するときに、気遣って接することができるようにしたいです。